

保健医療系大学学生が受ける教育上のストレスの調査研究

文京学院大学 芝 紀代子

はじめに

医療専門職として、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、診療放射線技師など 20 種近くの職種があり、医療分野がかなり多種多様な職種の人で構成されている。将来医療専門職をめざす保健医療系大学学生は患者と向かい合いながら、仕事をする職種だということを頭に入れて入学してきているはずである。文京学院大学保健医療技術学部は臨床検査学科、理学療法学科、作業療法学科からなり、一学年 200 名である。1 年次の最初にまず学生はカルチャーショックを受ける。講義科目の大部分が必修で、しかも月曜日から金曜日までほぼびっしり組まれており、今までなじみのなかった科目が並んでいるのにパニックを起こすのである。また全国から来るクラスメイトとの対人関係も大きな悩みになってくる。病む人を支えることを将来の仕事とすると考えていながら、自分自身のことも対処できないのでは、医療人としての適性にかけてしまう。学生が教育課程で受けるストレスの原因・状況、受ける強さを複数の大学の全学年に対してアンケート調査を実施し、データを統計処理し、医療専門職の良好な育成に資するため、学生が教育上受けるストレスを調査研究することを目的とする。

方法

1. 調査対象

1,117 名の学生を対象とした。文京学院大学保健医療技術学部臨床検査学科の1年生 88 名、2 年生 96 名、3 年生 69 名、4 年生 87 名の計 340 名、理学療法学科の1年生 74 名、2 年生 87 名、3 年生 76 名、4 年生 76 名の計 313 名、作業療法学科の1年生 22 名、2 年生 36 名、3 年生 33 名、4 年生 35 名の計 126 名で総計 779 名である。また、他大学と比較のため、埼玉県立大学保健医療福祉学部健康開発学科1年生 38 名、2 年生 40 名、3 年生 37 名、4 年生 26 名の計 141 名、九州大学医学部保健学科1年生 31 名、2 年生 30 名、3 年生 31 名の計 92 名、北海道大学医学部保健学科 2 年生 34 名、3 年生 36 名、4 年生 35 名の計 105 名、他大学は総計 338 名である。

2. 調査時期・方法

調査は 2011 年 1 月～2 月に無記名で自記式調査を実施した。調査の目的および個人のプライバシーは保護されることを説明し、同意の得られた学生に調査紙を配布した。

回答の方法は、各質問の項目について 1～4 を選択肢とした。「あてはまらない」は「1」、「ほとんどあてはまらない」は「2」、「ややあてはまる」は「3」、「あてはまる」は「4」とし、それらを点数とした。

3. 調査内容

教育上のストレスを見るため、学校生活に関する質問を 24 項目、ライフスタイルに関する質問を 29 項目、職業意識に関する質問を 17 項目とした。属性については、所属学科、学年、年齢、性別、クラブ活動の有無、アルバイトの有無を質問した。

4. 統計処理

統計解析は、1) 文京学院大学保健医療技術学部臨床検査学科の学年別比較、2) 文京学院大学保健医療技術学部臨床検査学科と理学療法学科と作業療法学科の 3 学科別比較、3) 文京学院大学保健医療技術学部臨床検査学科と埼玉県立大学、九州大学、北海道大学の大学別比較について、一元配置分散分析法を行い、多重比較として Scheffe 法を行い、有意差検定を行った。

結果と考察

1. 文京学院大学保健医療技術学部臨床検査学科の学生の生活状況

本学臨床検査学科について、クラブ活動とアルバイトについて調査したところ、クラブ活動参加は 1 年生で 51.7%、2 年生で 12.5%、3 年生で 13.0%、4 年生で 12.5%と 2 年生以降クラブ活動をする人が激減した。これは 1 年生の時は、教養科目にくさび型に専門科目が入っているため、時間的に余裕があるためにクラブ活動に参加できたのである。

2年生以降は大部分が専門科目の履修であり、しかも実習が入ってきて実習毎にレポート提出が義務付けられているために、クラブ活動をする暇がないといえる。アルバイトについてみると、1年生 71.0%、2年生 54.2%、3年生 53.0%、4年生 28.3%であった。クラブ活動と同様に2年生以降に時間的に余裕がなくなるため、学年が上がると減少している。特に4年次は前期は卒業研究、後期は国家試験に向けての勉強、そして就職試験と学業に手いっぱいのためである。

2. 教育上のストレスにおける文京学院大学保健医療技術学部臨床検査学科の学生の学年別比較

学生生活についてみてみた。高得点であった項目は、「1.医療分野を専攻したことに満足している」「2.自分が専攻している学科の講義内容に十分興味が持てる」「6.実験・実習には興味を持って取り組むことができる」「18.特別な理由がない限り講義は欠席しない」であった。このことは自分が専攻した臨床検査学科に満足していることになる。本学科を専攻しようという決心がすでに入学前からできており又入学してから専攻学科が自分に向いていると思う学生が多いといえる。そのため、「9.他大学の再受験を考えたことがある」「11.留年について不安がある」についての他学部への転学を考えている学生が少ないことから伺える。学生生活で低かったのは、「5.毎日予習復習する習慣がある」である。これは「4.レポートなどの提出物は必ず期限内に提出する」が平均 3.67 と高得点であることからレポート提出でいっぱいであり、予習、復習をする時間がなかったと解釈できる。「8.単位取得が出来るかどうか不安である」「11.留年について不安がある」についてはかなり意識しているようである。特に2年生では履修科目が多く、進級が1番大変な学年と話しているため、不安感を持ったと考えられる。国家試験に合格しなければ、臨床検査技師にはなれない。そのために学年を通じて国家試験合格は頭から離れないようである。特に4年生では直面している問題なので高得点になっている。

ライフスタイルについて3以上の高得点だったのは、「2.人との約束がきちんと守れる」「3.社会のルールをきちんと守れる」「4.日常の挨拶は率先して自分からする」「23.常に清潔度を保つように気をつけている」である。これは将来社会人になった時にも大切なことなので、高得点であったということはすでに社会人としての自覚が目覚めているといえる。「5.初対面のヒトとも気軽に話せる」が平均 2.63 であった。医療人となると、多くの場合、初対面の患者に接することになるので、これについては接遇教育の授業で更に強化する必要がある。「16.健康の不安がある」が平均 2.41 であった。「13.食事のバランスに気を使っている」「14.体重の増減に気をつけている」「15.間食をよくする」と自分の健康についてももう少し注意を向けて欲しいと思う項目であった。「19.本をよく読む」「20.新聞をよく読む」は平均 2.08、1.54 であった。学生時代から幅広い教養を身につけるが習慣を身につけさす必要性を感じた。「17.テレビを長時間見る」「18.ゲームを長時間する」は低得点であった。このことはレポートなどに追われるためか、無駄な時間を過ごしていないことになる。

職業意識については「9.医療に関する報道には関心がある」「11.病院にいくと自分が将来目指している仕事が気になる」は高得点であった。これは学生時代から将来の職業を見据えているためと考えている。一方、「11.病院にいくと自分が将来目指している仕事が気になる」「14.患者と接する仕事に不安がある」「15.社会人になる不安がある」「16.病院勤務に不安がある」に関しては果たして自分が実際に医療人になったときのことに対して、一抹の不安をいだいている。これは誰しも未経験なことに対しての不安であるのでそれほど大きな問題とはならないと考えている。

3. 文京学院大学保健医療技術学部臨床検査学科と理学療法学科と作業療法学科の学生の比較

まず学生生活について比較した。「1.医療分野を専攻したことに満足している」「2.自分が専攻している学科の講義内容に十分興味が持てる」「18.特別な理由がない限り講義は欠席しない」について、どの学科においても高得点であり、保健医療系大学の大学生は、常に自分が専攻した学科に満足していることになる。「5.毎日予習復習する習慣がある」について、全学科とも低得点だが、特に作業療法学科や理学療法学科は低得点である。これは「21.クラブ活動、サークル活動を楽しくやっている」の項目にあるように、クラブ活動やサークル活動を楽しくやっているため、予習復習

をおろそかにしている可能性が示唆される。「11.留年について不安がある」「12.卒業できるかどうか不安がある」については、臨床検査学科と違い、作業療法学科と理学療法学科では、学年があがるにつれて不安が減っているが、臨床検査学科はほぼ一定の不安をもっていることが示唆された。「21.クラブ活動、サークル活動を楽しんでいる」については、本学臨床検査学科は、2年次以降、授業や実習で忙しく、クラブ活動やサークル活動をする暇がないため、他の学科に比べ低得点であると考えられる。「23.学費の負担が大きい」については、特に医療系では学費が高いためどの学科においても負担となっていると考えられる。しかし、「24.学生生活をする上でアルバイトをしなければならない」において、理学療法学科は臨床検査学科に比して高得点となっており、学費以外にも様々な費用がかかっている可能性がある。

ライフスタイルについては、本学臨床検査学科で高得点であった、「2.人との約束がきちんと守れる」「3.社会のルールをきちんと守れる」「4.日常の挨拶は率先して自分からする」「23.常に清潔度を保つように気をつけている」の項目では、他の学科においても高得点であり、医療系の大学生は、1年生の時から社会人として当たり前のことはできるのだと示唆される。「28.自分に対する人の目が気になる」「29.人によく思われるように行動する」についても本学とともに他学科でも高得点であり、また「27.自分が間違っていたと感じても自己主張を続ける」については逆に低得点であった。現在の医療系学生は消極的でまわりの目を気にする人が多いのではないかと考えられる。

職業意識については、「5.ヒトの話をじっくり聞くことが出来る」「7.誰にでも親切にすることが出来る」や「9.医療に関する報道には関心がある」「11.病院にいくと自分が将来目指している仕事が気になる」についてどの学科も高得点であり、1年生の時から医療人としての心構えが出来ていると考えられる。「14.患者と接する仕事に不安がある」「15.社会人になる不安がある」については、1年次には臨床検査学科に比べ、理学療法学科の方が高得点であったが、4年次には逆になっており低得点になっていた。これは、臨床検査学科や作業療法学科は学年が上がるほどに不安が出てくるが、理学療法学科は学年が上がるたび、不安が減っていくというのは興味深い知見であった。「16.病院勤務に不安がある」についても、理学療法学科は学年が上がるにつれ、得点が減っていくのも他の学科と異なった動態を示していた。

4. 文京学院大学保健医療技術学部臨床検査学科と各大学の臨床検査学科との比較

学生生活について比較した。「1.医療分野を専攻したことに満足している」「2.自分が専攻している学科の講義内容に十分興味が持てる」「18.特別な理由がない限り講義は欠席しない」について、どの大学においても高点数であり、保健医療系大学の大学生は、やはり自分が専攻した学科に満足していることになる。「学内で転部、転学科を考えたことがある」については、どの大学も低得点であるが、本学や埼玉県立大学より九州大学や北海道大学が高い傾向にあったが、これは、九州大学や北海道大学は総合大学で選択の幅が広いので、わずかだが多い傾向が見られたと考えられる。「11.留年について不安がある」「12.卒業できるかどうか不安がある」については、本学の学生及び九州大学の学生に比して、埼玉県立大学や北海道大学の学生は低得点ということで、過去に留年したり、卒業できなかった学生が少なかったことが考えられる。他大学と比較して特に差が見られたのは、「21.クラブ活動、サークル活動を楽しんでいる」であるが、本学臨床検査学科は、2年次以降、授業や実習で忙しく、クラブ活動やサークル活動をする暇がないため、他大学に比べ低得点であると考えられる。「23.学費の負担が大きい」については、本学は、埼玉県立大学、九州大学、北海道大学よりも高得点であるが、私立大学であり授業料が他に比べ高いことが反映されていると示唆される。

ライフスタイルについて、本学臨床検査学科で高得点であった、「2.人との約束がきちんと守れる」「3.社会のルールをきちんと守れる」「4.日常の挨拶は率先して自分からする」「23.常に清潔度を保つように気をつけている」の項目では、他の大学においても高得点であり、医療系の大学生は、1年生の時から社会人として当たり前のことはできるのだと示唆される。そのうち、「4.日常の挨拶は率先して自分からする」については、埼玉県立大学や九州大学に比べ、本学が高得点なのは、オリエンテーション等によく挨拶するよう指導されているからだと考えられる。さらに「28.自分に対する

人の目が気になる」「29.人によく思われるように行動する」についても本学とともに他大学でも高得点であり、また「27.自分が間違っていたと感じても自己主張を続ける」については逆に低得点であった。それは、本学の理学療法学科と作業療法学科でも同様であったので、現在の医療系学生は消極的でまわりの目を気にする人が多いのではないかと考えられる。他大学と比較して特に差が見られたのは、2年生の「11.睡眠時間が短い(6時間未満である。)」であったが、これは、本学の臨床検査学科の2年生のカリキュラムは1～5限まで授業が埋まっており、友人たちと遊ぶ時間もないため、夜遊んでいるために睡眠時間が短くなっている可能性がある。そのほかの項目については、どの大学も同様の傾向が見られた。

職業意識については、どの大学も同じような得点であり、国立大学である九州大学や北海道大学でも公立大学である埼玉県立大学でも私立の大学である文京学院大学でも臨床検査技師を目指す学生は同じような意識を持っていることが示唆された。特に北海道大学の4年生は「15.社会人になる不安がある」「17.日当直のある仕事はさげたいと思う」の点数が低かったが、北海道大学の学生はほとんどが大学院に進学するためだと考えられる。

結論

保健医療系大学は教育科目が多様かつ過密で、学生は、4年間でとても多くのことを学ばなければならない。そのため、卒業できるかどうかの不安や留年しないかどうかの不安、単位が取得できるかどうかの不安が特にあることが分かった。本学臨床検査学科は特に作業療法学科や理学療法学科に比べ、クラブ活動やサークル活動を行う時間も少なく、ストレスがたまっているようであった。また、大学間の比較では、不安の箇所はほぼ同じであったが、国公立大学に比べ私立大学は学費の負担が大きいという不安の差が見られた。